



【Ikeda & Morimoto 2015】

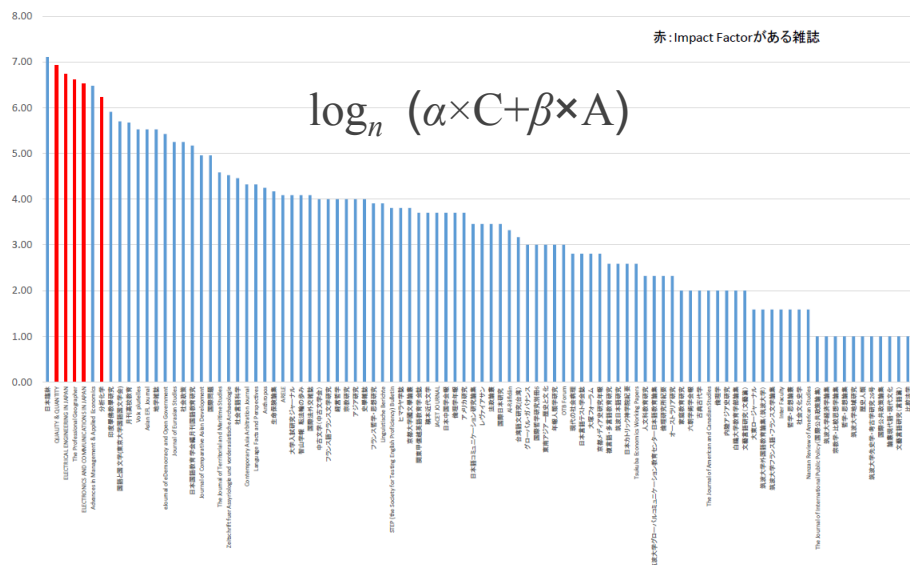
Jun Ikeda and Yukihito Morimoto, Research Metrics for the Rest of Us, *Inter Faculty* 6 (2015), 95-98.

- 人文社会系の特殊事情
 - 英語以外の言語で書かれた業績も重要
 - 著書も重要
 - Impact Factor の付かない学術誌も多い
- 部分的解決案：Diversity Factor (DF)
 - 学術誌の著者所属機関の多様性を定量化
 - 利点：客観性、簡便性、普遍性、透明性、評価の多様化
 - 課題：定性的評価との整合性

特願2017-138751

iMD: index for Measuring Diversity

iMD(対数(2))



【本指標が解決しようとする課題】

- THEやQSに代表される世界大学ランキングの評価項目の中に、学術雑誌に収録されている論文の被引用数にもとづく評価項目がある。これはScopus等の論文・引用データベースがもととなっているが、このデータベースに収録されていない学術雑誌については、評価の対象となっていない
- 本指標により、上記のデータベースに収録されていない論文を簡便かつ客観的に算出することができ、従来評価対象外となっていた学術雑誌を定量的に評価することが可能となる

【iMDの利用可能性】

- 学術情報データベースにおける学術誌の格付け指標としての利用
- 大学改革支援・学位授与機構による大学の研究力評価の基礎データとしての利用
- 個々の大学による研究者の人事・業績評価の基礎データとしての利用
- 商用大学ランキングにおける大学の研究力評価の基礎データとしての利用

【TSUKUBA indexとは？】

- TSUKUBA indexは iMDの算出結果一覧
- 今回Web公開するのは、Public Beta
 - 筑波大学人文社会系の教員が2015年に投稿した主な学術誌の暫定iMD
 - Web of Scienceから選んだ200誌の2015年の暫定iMD（データ提供：クラリベイト・アナリティクス）



言語: ● HOME 機構長の挨拶 ICRについて メンバー プロジェクト

TSUKUBA index (Public Beta)

IMD*について

- iMD は "Diversity Factor" (DF) の改良版です。DFは、「被引用数に基づく現行の指標は人文社会分野の研究力のほんの一部しか捉えていない」(Ikeda & Morimoto 2015) という問題意識から開発されました。
- DFは次の計算式で算出されます: $(A+C)/A$ 。Aは年間の著者所属（重複を除く）、Cは所属機関の立地国（重複を除く）、Iは年間発行号数を示します。これにより、DFは学術誌の1号あたりの多様性を著者の所属機関とそれらが立地する国という観点から定量化します（前掲論文）。
- DFの改良版であるiMD (index for Measuring Diversity) は次の計算式で算出されます: $\log_e (a^{\alpha} C^{\beta} \times A)$ 。CとAはDFの場合と同様です。 α と β はCとAの重み付け係数です。CとAに同等の重み付けを付与するには、 α と β に1を指定します。AICの2倍の重み付けを付与するには、 α に1、 β に2を指定します。これにより、iMDは学術誌等の1年ごとの多様性を著者の所属機関とそれらが立地する国という観点から、必要に応じた重み付けで定量化します。なお、Aの値の幅が大きすぎるため、iMDでは対数スケールを採用しました。

<https://icrhs.tsukuba.ac.jp/tsukuba-index/>

<https://journal.hass.tsukuba.ac.jp/interfaculty/article/view/99>

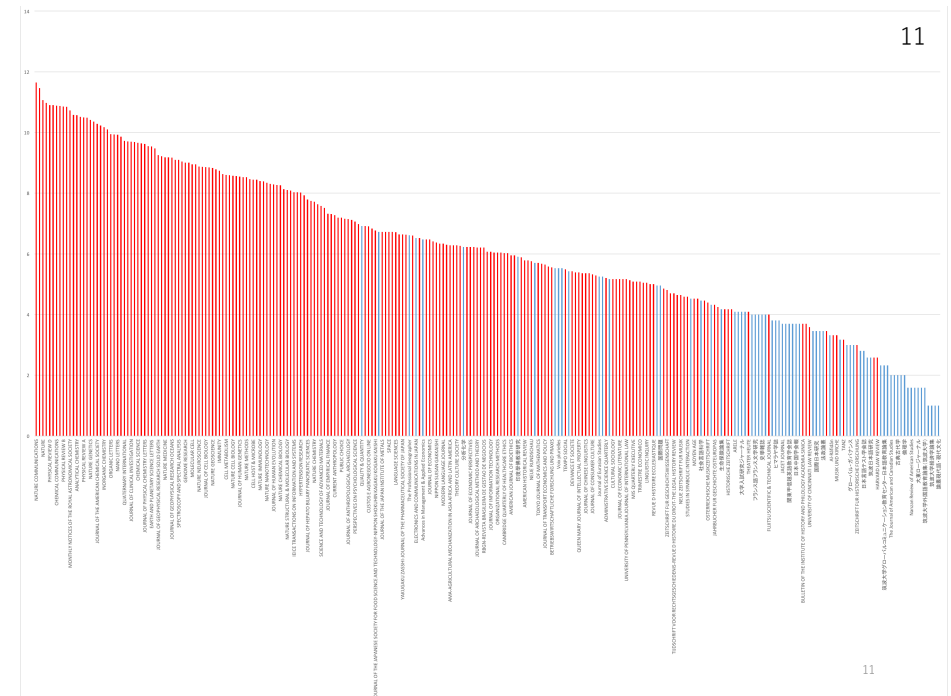
TSUKUBA index について

- TSUKUBA indexは iMDの算出結果の一覧です。ここにPublic BetaとしてWeb公開するのは、筑波大学人文社会系の教員が2015年に投稿した主な学術誌、およびWeb of Scienceから選んだ200誌（データ提供：クラリベイト・アナリティクス）の2015年の暫定iMDです。
- これはPublic Betaであり、改善に向けたご意見を募集中です。ご意見やご質問は、imd@icrhs.tsukuba.ac.jp までお願いいたします。

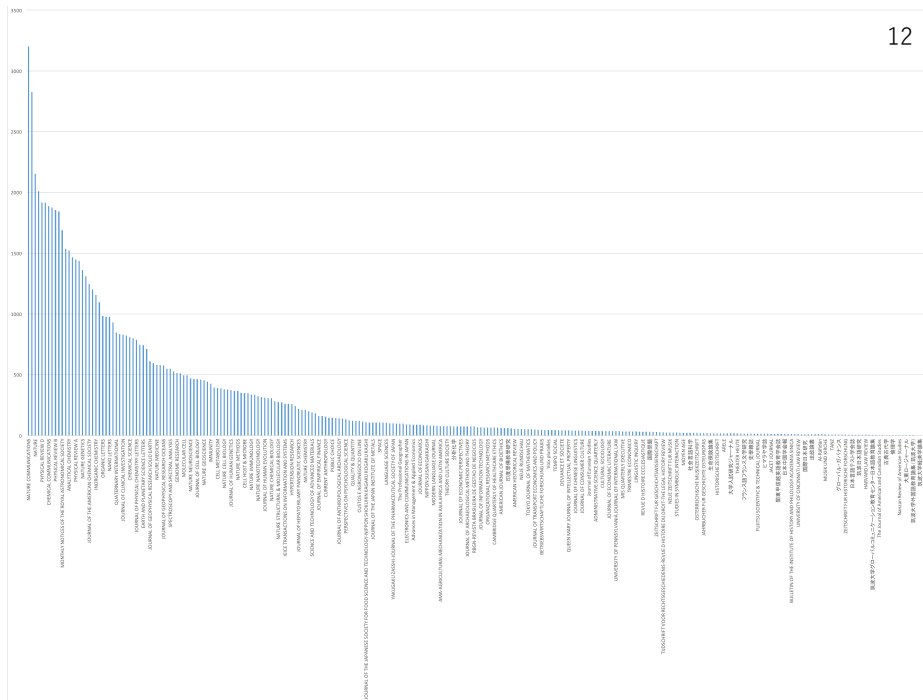
誌名	2015
NATURE COMMUNICATIONS	11.6
PROCEEDINGS OF THE NATIONAL ACADEMY OF SCIENCES OF THE UNITED STATES OF AMERICA	11.5

10

11



11



15

【課題】

- 所属機関名の粒度
- 多国籍機関の国数
- 機関数と国数の重み付け
- 算出に含めるPaperの種別
- 対数スケールの是非
- 論文数や共著者数の影響
- iMDと定性的評価の照合

【Public Beta から Ver. 1.0 へ】

- 皆様との意見交換をふまえて、2015年と2016年のiMDを算出し、年度内にver. 1.0をWeb公開
- ご意見、ご質問は下記のメールアドレスで随時受け付けています。

imd@icrhs.tsukuba.ac.jp

16

【展望】

- メタデータを有するパートナーとの共同研究
 - 国立情報学研究所
 - 科学技術振興機構
- メタデータを有するパートナーと連携し、汎用的指標として普及を図る
 - J-STAGE ?
 - Web of Science ??
 - SciVal ??
 - Snowball Metrics ???